

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970100174		
法人名	株式会社シティプランナー		
事業所名	フレンドニヶ辻		
所在地	奈良県奈良市尼辻西町8-10		
自己評価作成日	令和2年10月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhvu_detail_Q22_kani=true&JivqosvoCd=2970100174-00&ServiceCd=320&Type
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症になっても手助けがあれば出来るがたくさんあります その人としっかり向き合い職員 家族様との情報の共有化をはかり その人らしい生活ができるように努力しています 新型コロナのため外出や地域との交流が制限される状況です 家庭的な雰囲気の中で利用者の方々が笑顔で過ごせるように取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、中庭のある大きな民家を改装してホームとして利用し、職員は利用者に家族を感じてもらえるようにと穏やかに接し、手作りの食事を提供していることなど本来の家族的なグループホームの姿が継承されている。最寄り駅やバス停がそばにあり交通の便が良く、住宅地の中にあることから、利用者を交えた近隣住民との交流も自然体でなされており職員の地道な行動の成果が表れている。コロナ禍の閉塞した生活の中で、業務の増加や緊張の続く職員へ宛てた家族からのお礼の言葉が励ましとなっている。利用者は美味しい物を食べ、庭に来る鳥を見たり、花や野菜の手入れをしたり、廊下を散歩したりと見守られ過ごしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+Enter) です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に経営理念を掲げいつも目につくようにしている。職員会議等でこの理念をもとに意識の統一を図り日々の介護で実践している。	玄関を入った正面の目線の位置に法人の3理念が張り出され意識喚起をしている。事業所理念の「その人らしさを発揮できる場面作り」は職員に浸透しており、利用者に応じた対応や言葉掛けが行われている。今年目標として職員間の連携を図り、利用者の満足度を上げ結果を数値化しようと模索している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に入居者の方々も一緒に参加していただき交流をはかっている。夏祭りや避難訓練などに参加していただきグループホームの活動の意義を理解してもらっている。	自治会に加入し、地域行事への参加、中学生の体験学習の受け入れ、ボランティアの来訪など地域交流は盛んであったが、コロナ禍で利用者が地域の方と交流できる機会は途絶えている。そのような状況でも近隣住民から声をかけられたり、花や農作物の届け物がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い取り組んでいる中庭には近所の方から頂いたお花の苗やハーブをうえて一緒に楽しんでいただいている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階	自治会 地域包括支援センター家族様にも参加していただき2カ月ごとに開催している。今年はコロナ感染拡大防止のためなかなか開催できないが民生委員のかたから入居者様にお手紙をいただいている	自治会、地域包括支援センター職員、民生委員、家族、利用者の参加を得て、雑談を交えて賑やかに運営推進会議を行っていたが、今年は予定どおり出来ていない。参加しない家族に外部評価について周知できていない。	外部評価をサービスの質の向上に生かすためにも、自己評価項目を職員と共に考え意見を取り入れるとともに家族への情報の窓口として外部評価結果や運営推進会議議事録を不参加の家族にも周知することが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの現状を報告したり指導してもらっている社会福祉協議会の方もきてくださり相談にのっていただいたり行政との連携をはかっている	市社協や介護福祉課、保護課などにも相談や連絡を取っている。地域包括支援センターとは連絡を密に取り、書類を届けるなどしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時にも身体拘束を行わないことを説明させていただいている。管理者やスタッフは年2回内部研修に参加し知識を深め周知徹底している。	重要事項説明書に身体拘束はしないと謳い、身体拘束をしない場合の起こりうるリスクの説明も行われている。駅や交通量の多い道路も近く玄関は、電子ロック錠になっているが、法人研修に参加し事例レポートをスタッフ会議で話し合い、身体拘束の意識を確認している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてもケア会議で研修を行い職員が無意識のうちに虐待をしていないかケアの見直しをおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は内部研修を通して学びその内容をスタッフに説明し教育している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書 利用契約書を文書で説明している 理解していただけなかったか疑問点はないか確認しながら行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の思いは日々のコミュニケーションの中で聞くようにしている それらをケア会議で話し合い入居者様の思いにこたえるようにしている 来訪時には意見を聴く機会を設けている	家族の来訪時やケアプラン更新時には必ず意見を聴くようにしている。家族の意見から毎朝廊下を歩くことを日課にしている。コロナ禍で職員の緊張した日々の続くなか、家族からの利用者への温かい励ましや、職員への感謝の手紙が皆の励みになっている。	利用者の外出や家族との面会ができない状態が続いており、ビデオ通話やリモート面会などを取り入れた工夫を期待する。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議はスタッフが意見を述べやすい雰囲気である 苦情や不満なども聞き取りサポートしている	月に1度のケア会議では活発に意見が出ているが、時にはケーキを出したり、飲食店で行うなど雰囲気づくりを大切にしている。また管理者は年に2度個別面談を行い、個人的な意見なども聴き、職員の基礎知識、努力を評価し、メンタル面でもサポートするようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員からの相談をうけている 重要性がある場合はマネージャーにもアドバイスをもらっている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ専用のチェックリストを用いてOJTをすすめているOJT指導員も指導にあたり職員のスキルアップを行っている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	学会 音楽祭 健康祭り スポーツイベントなど交流する機会を設けてくれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時には利用を前面に推し進めるのではなく本人の困っている事 不安なこと要望をよくきくようにつとめている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた際にはご家族様が困っておられる状況を傾聴しグループホーム利用を前提にしないように努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方がグループホームの利用が適切かどうか相談員等と連携をとりながら見極めるように努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは自立支援のお手伝いをしているということを念頭におき入居者様の意思表示ご協力があることで初めて介助させていただけるということを確認している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	認知症の方を家族様を含めた地域で支えるということを念頭に置きキーパーソンと関係を密にし共に入居者様を支える関係を築いている一言通信等送っている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等馴染みの人との交流を支援している なじみの店や場所へスタッフと出かける時もある 地域の高齢者学級や編み物教室へ通う方もある	以前から学んでいた編み物教室や公民館の高齢者学級、歌の会に通ったり、友達の訪問や日々の散歩、買い物などに出掛けていたが、コロナ禍で馴染みの人や場所との関係が今は途切れている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	大家族のような生活の中で自然に役割分担ができていてその人らしく生活されているトラブルが出そうときは必ず見守りを行っている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じグループ内の他施設に移られた方もいるがスタッフは時々顔を見に行かせてもらったりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意見やおもいにそった暮らし方をしている。その方の生活歴や習慣も掘り起しその人らしい個性を尊重している	各利用者の人となりや好きなことを職員全員で共有し、編み物や書道、歌を楽しんだり行事の挨拶を担当してもらったりと持てる力を発揮し同じ空間を楽しむよう支援している。外出自粛が続き、利用者の方から「何か作ろう」と声がかかることもある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを作成して生活歴 趣味 好みを把握しているご家族様やご友人からの昔のエピソードを聞きだしてケアに活かしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に日々の様子を記入しており、スタッフ間で情報共有している。ケアカンファレンスを行い、申し送りしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から入居者様の意見や要望を聞き家族様の面会時には積極的に意見をうかがうようにしている ケア会議でスタッフ全員で話し合って情報を共有し介護計画を作成している	アセスメントシートを読み込み作成した介護計画を家族に説明している。ケア会議で職員と話し合い、6ヶ月ごとにサービス評価表を作成してモニタリングを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用意して、日常生活の様子や、バイタル 食事摂取量、排泄状態、ドクター往診時の記録をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに応じて、家族と相談し、家族の代わりに通院介助や受診の便宜を図っている。グループ内の有床診に移ったあとグループホームに戻って来られた方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回公民館の歌の会に参加している。近所の方が野菜を持って来てくださる。地域交流の中で、入居者さまの豊かな暮らしをおくれるように努めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科往診を受けている精神科 整形外科 眼科等の受診が必要になった場合も家族に連絡をとり希望があれば受診するようにしている	事業所の協力医が利用者全員の主治医になっており、月2度訪問診療を行っている。歯科、精神科、眼科など必要時には家族が付き添い通院している。家族が無理な時は、有料での通院介助も受けている。法人の看護師とは24時間連絡が取れる体制があり週に1度の訪問があり健康管理を担っている。家族へは、一言通信で生活の様子とともに健康状況を伝えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の定期訪問と24時間の連携体制により、入居者、職員は安心して相談できる往診医とも密接に連携が取れている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護師や管理者が定期的に訪問し、状態の把握に努め、退院時に家族、医療機関、フレンドとのカンファレンスを行えるように、関係づくりをしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定し重度化終末期に入る前に往診医看護師 職員がご家族とカンファレンスをおこない方針を決めている	ターミナル支援は行わないことを入居契約時に説明している。重度化した時に医師、看護師を交えて今後の対応について家族と話し合っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、ケア会議の中でも話し合い、周知徹底している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練をおこなっている コロナ感染防止対策のため今年は参加できていないが 地域の避難訓練に入居者さまも参加している	年2回利用者を交え避難訓練を実施しており、地域の方々に認識してもらうために訓練の始まる前に利用者に名札を付けている。災害時には近隣住民や民生委員の応援を頼んでおり事業所からは車椅子の貸し出しや備蓄品の提供を申し出ている。スプリンクラー、通報装置は設置済である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の個性 人格を尊重した言葉をかけ対応し入居者様に共感するようにしている 入居者様が選択できるような声掛けをおこなっている	居室は利用者の自宅と考え対応し、入浴時の同性介助やさりげないトイレ誘導を常に心掛けています。法人が行うプライバシーに関する研修に参加し職員にフィードバックしている。個人情報に関わる書類はスタッフルームに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の洗濯、献立の希望をお聞きしている。洋服を見せて選んでもらったり、テレビやチラシを見て買い物に出かけたりしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の業務は、決まった時間に縛られるのではなく、入居者様のペースに合わせて行っている。居室で過ごされている方もいるが、定期的に声を掛けに行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容をされる方と家族様と一緒に、行きつけの美容室に出かけられている方がいる。個人の希望による服装や髪形にしているが、いつも同じにならないように声掛け支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は 季節感も重視し入居者様の好みに合うもののあるものにして食作り 盛り付け等も一緒にしている お誕生日や 行事の時は一緒にメニューをきめている	食事は職員の手作りで提供している。利用者とメニューを話し合ったり準備、片付けなど出来ることは一緒に行なっている。コロナ禍で外食は出来ないが出前を取り外食気分を味わっている。車椅子利用者も食卓椅子に座りなおし、職員も一緒に食事をしている。1日1500ccの水分補給を心掛け、時にはゼリーに変えて飲んでもらうこともある。利用者と一緒に吊るし柿を作り出来上がりを楽しみにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の摂取カロリー必要水分量 栄養バランスをおおよそ把握している 必要な水分を摂取できるよう好みの飲み物やゼリーを作り支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に応じて支援している。状態が変化した際にはケアの方法を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄表を作りパターンを把握してできるだけトイレでの排泄を促している 誘導介助はさりげなく行っている	昼間は、布パンツ又はリハビリパンツで過ごしトイレでの自然排泄を心掛けている。夜間のオムツ使用者は1名だけで、2名がポータブルトイレを使用している。ヨーグルトや果物を取り入れホットパックも利用し便秘予防に繋げている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト 果物 野菜等の摂取に努めている また水分摂取を促し 体操や必要に応じてホットパックを用意し便秘予防にとりくんでいる		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や体調にあわせて週2 - 3回のペースで入浴していただいている立位の取れない方は2名で介助を行っている	週に2～3回を目安に午後に入浴している。全介助の方が2名おられる。入浴剤やゆず湯などで楽しんでもらっている。入浴を嫌がる方には強制はせず、柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で編み物をしたり食事作りレクリエーションなど個々にあった生活のリズムを作るように配慮している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解し服薬支援の方法に変更はないか確認している 症状に変化があれば記録し医師に伝えている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物ほし 洗濯物たため 食事の手伝いなど能力に応じて役割分担している 楽しみながら気分転換できるように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ感染予防のため楽しみしている秋祭りや公民館行事も中止になりましたが日常生活の中で中庭で季節ごとの野菜づくりをしたり楽しんでおられる	法人の方針もありコロナ禍で外出が出来ないので、庭で花や野菜の世話をしたり、外気浴や廊下散歩を増やしたり、ラジオ体操をして出席表に印鑑を押すなど楽しんで時間が過ごせるよう工夫しているが閉塞感は免れていない。	現在使用のケアプラン表では外出頻度や状況が解りにくいので、一目で解る様式の工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持しているかたは管理のお手伝いをさせていただいている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用される際にはスタッフがお手伝いさせていただき話をしてもらっている 古くからの友人に手紙を書いている方もおられる		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まるリビングには自由に思い思いに過ごしていただけるようにソファをおいてお気に入りの場所を確保している 玄関 リビングにも入居者様がお花をいけてくださっている	古民家を利用した家屋なので部屋の温度や湿度の管理には注意をしている。利用者の似顔絵が掲げられた壁には、季節ごとに交換される絵や習字作品が飾られている。廊下をなくし畳部屋と一体化した広い板の間のリビングに改装したため、2ヶ所あるトイレは車椅子での使用者には狭く感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるようにソファやいすを置いてテレビを見たり中庭を見たり お話をしたり楽しく過ごされている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ慣れ親しんだ家具などを持参していただきその人らしく居心地良く過ごせるように工夫している	古民家を改装しているため居室の広さはまちまちで決まっておらず、板の間や畳敷きの部屋がある。ベッドやタンスは、備え付けの物を使われる方もあるが、ソファ、テレビ、位牌、賞状、作品など思い思いの物を持ち込み自分らしい部屋作りをしている。コロナ禍で法人の方針から見学は出来ていない。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑りとめや手すりを設置して入居者様の状態に合わせてるように工夫している トイレの表札もわかりやすい文字で表示している		